

金子弘真教授送別の辞

船橋 公彦

東邦大学医学部外科学講座一般・消化器外科学分野（大森）教授

金子弘真教授が、平成 29 年 3 月 31 日をもちまして東邦大学外科学講座一般・消化器外科学分野（大森）の教授を定年退任されるにあたり、心からお祝いと感謝の意を申し上げます。金子教授のご退任にあたり、教室を代表して御礼の言葉を述べさせていただきます。

平成 15 年の大学の診療科再編によって旧第一外科と旧第二外科が 1 つに統合され、消化器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科の 3 領域で構成される一般・消化器外科として再スタートし、あっという間の 13 年でした。今こうしてこの 13 年を改めて振り返ってみますと、さまざまなことがありました。診療科再編という荒波の中で、金子教授は早々に教室の立て直しに取り組みました。寺本龍生教授から大腸・肛門外科の責任者を受け継いだ私に加えまして、平成 21 年に島田英昭先生を胃・食道外科の、翌平成 22 年には黒岩 実先生を小児外科のそれぞれ責任者として迎え、その一方で今や安全な医療を提供していくうえでは欠かせない安全管理の部門の長として渡邊正志先生、栄養サポート部門の長として鷺澤尚宏先生を責任者として教室から派遣するなど教室の基礎作りにご尽力されたとともに、副院長・院長補佐として東邦大学医療センター大森病院の発展にも大きく貢献されてきました。また、診療・学術面では今や外科治療の主役となっている腹腔鏡手術にいち早く注目し、腹腔鏡による肝切除術の本邦への導入・普及に大き

く貢献され、今や日本に留まらず世界の“Prof. Kaneko”として、この領域の第一人者であることは医局員一同大変誇り高いことでもあります。また、2015 年には第 27 回日本肝胆脾外科学会、翌 2016 年には臨床外科医の中では本邦最大の学術集会として知られる日本臨床外科学会の第 78 回学術集会の会長も務められ、これら学会の成功は私をはじめ医局員の誇りと自信にも繋がったと確信しております。こうした金子教授の指導者としての采配力に改めて感銘を受けるとともに、この 13 年かけて金子教授が行動をもってわれわれ医局員に示された道に、今度はわれわれが高い志をもってこの大きなキャンパスに絵を描き、素敵な作品を完成させていかなければならない使命を感じております。御退任後は、東邦大学の外科低侵襲医療学の特任教授として益々ご多忙な日々が続きますが、お体には是非気をつけて頂き、時として教室の外から手厳しくご指導頂くとともに、今後のわれわれの成長を暖かく見守って頂きたいと思っております。

最後にはなりますが、ここに長きにわたってのご指導と教室へのご貢献に感謝申し上げますとともに、先生のご健康とご多幸を医局員一同、心から祈念いたしております。今後、益々の先生のご発展をお祈り申し上げ、送別の辞に代えさせていただきます。本当にありがとうございます。

